

コクガン

宮城県ではマガンやヒシクイなど、内陸部に生息するガンが有名です。しかし、南三陸沿岸にも海藻などを食べて生活しているガンがいます。コクガンです。天然記念物、絶滅危惧種で、白と黒のツートンカラーのエレガントな鳥です。繁殖地はどこなのか？どのように冬を過ごすのか？ 分かっていないことが多い謎の鳥です。

数千キロの渡りをし、海上の広い範囲で活動する鳥を追跡するには衛星追跡しかありません。私たちの研究グループはコクガンの謎を解明するため、コクガンの衛星追跡を試みました。

最大の難関は、衛星送信機を装着するためにコクガンをどのように捕獲するかです。餌づけに来る鳥ならば、餌づけ場所におびき寄せることができます。しかし、コクガンは餌づけに来ません。

東日本大震災の後、コクガンはそれまで利用しなかった漁港で見られるようになりました。地盤沈下によって岸壁が潮間帯となり、食物となる海藻が付着したためです。漁港では数メートル先の手の届くような位置で見られます。これはいけると、捕獲場所として漁港を選びました。

しかし、コンクリートへの網の設置が困難な上、設置するとコクガンは何か変だな、と思うようで漁港に来なくなりました。ほかにも採食できる場所があるため、必ずしもそこで食べる必要はありません。

漁港での捕獲に失敗し、捕獲方法に悩んでいたころ、コクガンの飲水行動を観察しました。砂浜に流れ込んでいる小河川に毎朝来て真水を飲むのです。海上で生活しますが、真水を必要とします。私たちはコクガンが必ず訪れる場所を発見したのです。

飲水行動を詳細に観察し、失敗から学んだ知見を最大限に活用して捕獲に成功したのが2014年1月21日。日本で初めてコクガンの捕獲に成功した日となり、その後アジア初の衛星追跡が始まりました。

成功の最大のポイントはコクガンが必ず訪れる場所を発見したことでした。失敗しても諦めずに観察していれば、自然は答えを導いてくれると思いました。

嶋田哲郎

(河北新報・微風旋風 2015年2月5日掲載)